

フエダイ科ワキグロアカフエダイの標本に基づく高知県からの記録と和歌山県からの写真記録

松永 翼¹・山川 武¹・遠藤広光¹

Author & Article Info

¹ 高知大学理工学部海洋生物学研究室（高知市）
TM: b213s046@s.kochi-u.ac.jp (corresponding author)
TY: fishkochi@md.pikara.ne.jp
HE: endoh@kochi-u.ac.jp

Received 07 June 2024
Revised 10 June 2024
Accepted 10 June 2024
Published 11 June 2024
DOI 10.34583/ichthy.45.0_58

Tsubasa Matsunaga, Takeshi Yamakawa and Hiromitsu Endo. 2024. First specimen-based record of *Lutjanus timorensis* (Lutjanidae) from Kochi Prefecture and photographic record from Wakayama Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 58–61.

Abstract

A single juvenile specimen (75.4 mm standard length) of *Lutjanus timorensis* (Quoy and Gaimard, 1824) (Lutjanidae), collected at Mimase fish market in Kochi City, represents the first record of the species from Kochi Prefecture, Shikoku, Japan. The species was also firstly recorded from Wakayama Prefecture (central Honshu) on the basis of an underwater photograph taken at Kii-oshima island.

フエダイ科 Lutjanidae は日本から 13 属 54 種が記録され、そのうちフエダイ属 *Lutjanus* Bloch, 1790 は 26 種でほぼ半数を占める（本村, 2024）。また、高知県からは 31 種のフエダイ科が記録され、そのうちフエダイ属は 18 種である（蒲原, 1954, 1960；平田ほか, 1996；島田, 2013；松永・難波, 2023）。本属のうち、ワキグロアカフエダイ *L. timorensis* (Quoy and Gaimard, 1824) は、日本を含める東インド洋と太平洋の広域から記録されている（Allen and Talbot, 1985; Fricke et al., 2014; Tanaka, 2019）。日本において、本種は Iwatsuki and Kimura (1994) により沖縄県八重山諸島の西表島から得られた 2 標本に基づき日本初記録として報告され（Iwatsuki and Kimura, 1994）、下瀬（2021）は八重山諸島では本種が稀に漁獲されることを報告している。これら以外に国内では本種の記録は報告されていなかった。

1953 年 3 月 4 日に高知県高知市御豊瀬漁港で水揚げされたフエダイ属魚類を再検討した結果、ワキグロアカフエダイに同定された。加えて、2016 年 10 月に和歌山県

紀伊大島内浦ビーチで撮影されたフエダイ属魚類もワキグロアカフエダイに同定された。これらの資料は、本種の四国（高知県）と本州（和歌山県）からの初記録となるため報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) と Allen and Talbot (1985) にしたがって、標準体長は SL または体長と表記した。計測はノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行い、小数点以下第 2 位を四捨五入した。計測は原則的に左体側、破損がある場合には右体側でおこなった。鱗の計数はアニリンブルーで一時的に染色しておこなった。本報告に用いた標本は高知大学理工学部海洋生物学研究室（BSKU）に、和歌山県で撮影された写真資料は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類画像資料データベース（KPM-NR）にそれぞれ保管されている。なお、神奈川県立生命の星・地球博物館の写真資料番号は、電子台帳上ではゼロが付加された 7 桁の数字が使われているが、ここでは標本資料番号として本質的な有効数字で表した。

Lutjanus timorensis (Quoy and Gaimard, 1824)

ワキグロアカフエダイ

(Figs. 1–3)

標本 BSKU 2363, 体長 75.4 mm, 高知県高知市御豊瀬漁港, 底曳網, 1953 年 3 月 4 日。

写真資料 KPM-NR 253007, 和歌山県東牟婁郡串本町須江紀伊大島内浦ビーチ, 水深 26 m, 2016 年 10 月, 水温 26°C, 赤松佳樹撮影。

高知産標本の記載 背鰭鰭条数 XI, 13; 臀鰭鰭条数 III, 8; 胸鰭鰭条数 16; 腹鰭鰭条数 I, 5; 鰓耙数 7 + 13; 鰓条骨数 7; 側線有孔鱗数 45; 側線下方鱗数 12; 頬部の鱗列数 6 (側線上方鱗は破損のため計数不可)。体各部測定値の体長に対する割合 (%) : 頭長 42.3; 吻長 10.2; 眼径 12.9; 両眼間隔 9.3; 眼下幅 6.2; 上顎長 16.0; 体高 43.9; 体幅 16.7; 尾柄高 13.7; 尾柄長 19.6; 背鰭前長 42.7; 臀鰭前長 74.1;



Fig. 1. Preserved specimen of *Lutjanus timorensis* from Kochi Prefecture, Japan, BSKU 2363. 75.4 mm SL.



Fig. 2. Preserved specimen of *Lutjanus timorensis* from Kochi Prefecture, Japan, BSKU 2363. 75.4 mm SL, showing fin coloration.

胸鰭前長 38.2；腹鰭前長 41.8；背鰭基底長 55.6；背鰭第 1 棘長 6.6；背鰭第 2 棘長 12.5；背鰭第 3 棘長 16.0；背鰭第 4 棘長 17.6；背鰭第 5 棘長 17.2；背鰭第 6 棘長 16.3；背鰭第 7 棘長 15.1；背鰭第 8 棘長 15.4；背鰭第 9 棘長 16.4；背鰭第 10 棘長 16.2；背鰭第 11 棘長 17.2；背鰭最長軟条長 20.4；臀鰭基底長 18.4；臀鰭第 1 棘長 7.7；臀鰭第 2 棘長 17.2；臀鰭第 3 棘長 13.4；臀鰭最長軟条長 19.1；胸鰭長 33.0；腹鰭棘長 14.7；腹鰭長 26.1；尾鰭上葉長 27.9；尾鰭下葉長 26.3。

頭部と体は側扁する。腹部はやや丸みを帯び、尾柄は



Fig. 3. Underwater photograph of *Lutjanus timorensis* (KPM-NR 253007) from Uchiura Beach, Kii-oshima island, Wakayama Prefecture, Japan.

強く側扁する。体の背縁は吻端から背鰭基底後端まで上方に向いて膨らんだ弧状。体の腹縁は下顎先端から腹鰭基部まで緩やかに下降し、そこから臀鰭基底後端にかけて緩やかに上昇する。尾柄部は背腹両縁ともに直線的。体高は体長の 43.9% と高く、背鰭第 4 棘基部で最大となる。吻端はやや尖り、上顎が下顎よりわずかに突出する。上顎後端は瞳孔の中心直下よりやや前に位置する。瞳孔は円形で、鼻孔は 2 対。両顎に 1 列の小円錐歯と犬歯状歯をもち、前方の犬歯状歯の数本はやや肥大する。鋤骨歯帯は三日月状で、中央部は後方に突出しない。前鰓蓋骨後縁の下部に欠刻があり、間鰓蓋骨は隆起する。前鰓蓋骨の後縁から下縁は鋸歯状。背鰭は 1 基で、その始部は鰓蓋上端より後方に位置する；第 4 棘条が最長となり、棘条部鰭膜の切れ込みは前方ほど深い。胸鰭は背鰭起部直下に、胸鰭基底上端と下端は鰓蓋後端直下にそれぞれ位置する。腹鰭は背鰭起部直下に

位置し、最長軟条の先端は総排泄口に達し、臀鰭起部には達しない。総排泄口は臀鰭起部直前で開孔する。鰭起部は胸鰭後端直下で、背鰭第1軟条直下に位置する。尾柄は長く、尾柄高は尾柄長の69.5%。尾鰭は截形で、わずかに中央部が湾入する。躯幹部、頬部、背鰭基底、および臀鰭基底は櫛鱗に被われる。側線より上方の鱗列は斜め上後方に向かう。

高知産標本の色彩 体の地色は淡茶色で、背鰭起部付近から眼上まで薄い暗色斜帯がはしる (Fig. 2)。各鰭の地色は淡黄色で、背鰭と臀鰭の縁辺は黒褐色、腹鰭先端付近は黒褐色。

和歌山県で撮影された写真個体の色彩 虹彩は銀白色で、右斜め上と左斜め下が赤褐色 (Fig. 3)。体側面は銀白色で、背鰭始部から下顎先端にかけて赤褐色斜帯がはしる。躯幹部と尾柄部の側線より上方では薄い赤褐色線が右斜め上に複数はしり、側線より下方では薄い赤褐色縦線が複数はしる。側線より上方の尾柄部に1白色斑がある。背鰭第1, 2棘条とその鰭膜は赤褐色。第3棘条から第6軟条までは半透明の白色で、先端付近は赤褐色。第7軟条から最終軟条は半透明の白色。胸鰭は半透明の白色。腹鰭は半透明の白色で、腹鰭の第1棘条基底から中間付近まで、第1軟条から第3軟条まではそれぞれ赤褐色；第1棘と第1軟条間の鰭膜は先端が白色。臀鰭は半透明の白色で、始部から第4軟条付近までの縁辺付近に赤褐色斜帯がはしり、縁辺は白色。尾鰭は半透明の白色。

分布 スリランカ以東の東インド洋から西太平洋、南太平洋に分布し (Allen and Talbot, 1985; Fricke et al., 2014; Tanaka, 2019)、日本国内では八重山諸島 (西表島) (Iwatsuki and Kimura, 1994; 下瀬, 2011)、高知県と和歌山県紀伊大島 (本報告) から記録がある。

備考 フェダイ属は以下の形質で特徴づけられる：背鰭は10–12棘12–16軟条、臀鰭は7–10軟条、両顎に小円錐歯と犬歯状歯をもち、前方の犬歯状歯の数本がやや肥大し、前鰓蓋骨後縁の下部に欠刻があり、間鰓蓋骨は隆起する、そして尾鰭は截形あるいは弱い湾入形 (Allen and Talbot, 1985)。高知産の標本は上記の特徴をもつことにくわえ、背鰭基部に被鱗部がある、第1鰓弓上枝の鰓耙数が7、側線より上方の鱗列が斜め上へ向かう、下方の鱗列が体軸と平行に並ぶ、鋤骨に歯帯があり、中央部が後方に突出しない、背鰭起部付近から右斜め眼上にかけて薄い暗色斜帯がはしり、背鰭と臀鰭の縁辺が黒褐で、そして腹鰭前縁付近が黒褐色であるという特徴をもち、Allen and Talbot (1985) と島田 (2013) のワキグロアカフェダイ *L. timorensis* の特徴に一致した。さらに、和歌山県で撮影された写真資料は (Fig. 3)、背鰭始部から下顎先端にかけて赤褐色斜帯がはしる、側線より上方の尾柄部に1白色斑がある、背鰭第1, 2棘条とその鰭膜は赤褐色で、第3棘条から第6軟条の先

端が赤褐色、臀鰭始部から臀鰭第4軟条付近までの先端付近に赤褐色斜帯がはしるという特徴が、Allen and Talbot (1985) の示すワキグロアカフェダイ未成魚の生時の色彩と一致したことから本種に同定された。

高知産の標本は、1953年3月4日に底曳網によって漁獲され、高知市の御豊瀬漁港で採集されたことが標本台帳に記録されているが、高知県内のどの海域から得られたかは不明である。1953年当時、御豊瀬漁港では沖合の大手繰り網 (9月から4月) と沿岸の小手繰り網 (夏季) による底曳網漁がおこなわれ、前者はおおよそ水深50 m以深、後者はそれ以浅で操業されていた (蒲原, 1949; Nakayama, 2016)。なお、本種の生息水深は10–150 mとされる (Allen and Talbot, 1985; Fricke et al., 2014)。いずれにせよ、御豊瀬漁港を拠点とした底曳網漁は高知県沿岸から沖合に限られることから、本標本が高知県産であることは確実と考えられる。

高知産の標本と和歌山県で撮影された個体はいずれも未成魚で、黒潮により南方海域から輸送された無効分散した個体であると考えられ、高知県と和歌山県沿岸で再生産している可能性は低い。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、Akamatsu Diver'sの赤松佳樹氏には水中写真とその撮影情報を提供いただいた。神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏博士には水中写真のデータベースへの登録と使用の許可をしていただいた。また、高知大学理工学部海洋生物学研究室の津野義大氏をはじめとする学生の方々には研究活動に協力いただいた。以上の方々に深く感謝申し上げる。

引用文献

- Allen, G. R. and F. H. Talbot. 1985. Review of the snappers of the genus *Lutjanus* (Pisces: Lutjanidae) from the Indo-Pacific, with the description of a new species. *Indo-Pacific Fishes*, 11: 1–87.
- Fricke, R., G. R. Allen, S. Andréfouët, W.-J. Chen, M. A. Hamel, P. Laboute, R. R. Mana, H. H. Tan and D. Uyeno. 2014. Checklist of the marine and estuarine fishes of Madang District, Papua New Guinea, western Pacific Ocean, with 820 new records. *Zootaxa*, 3832: 1–247.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相 行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, 16: 1–177.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. *Bulletin of Cranbrook Institute of Science*, 26: 1–186.
- Iwatsuki, Y. and S. Kimura. 1994. Timor Snapper, *Lutjanus timorensis* (Quoy et Gaimard), collected from Japanese waters. *Japanese Journal of Ichthyology*, 40: 475–477. [URL](#)
- 蒲原稔治. 1949. 土佐の魚. 高知県文教協会, 高知. 158 pp.
- 蒲原稔治. 1954. 土佐産タルミ属 (*Lutjanus*) の魚類に就いて. *魚類学雑誌*, 3: 107–117. [URL](#)
- 蒲原稔治. 1960. 高知県沖ノ島及びその付近の沿岸魚類. 高知大学学術研究報告, 9: 15–30.
- 松永 翼・難波拓登. 2023. 高知県から得られたアミメフェダイの標本に基づく北限記録. *Niche Life*, 11: 50–52. [URL](#)

- 本村浩之. 2024. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 25. [URL](#) (6 May 2024)
- Nakayama, N. 2016. Commercial trawl landings by local fishermen: an important source of scientific specimens for deep-sea fish taxonomy in Japan, pp. 50–56. In Nakayama, N. (ed.) Proceeding of the International Symposium on Interactions of Human, Culture and Nature Explored with University Museum Collections. Kyoto University, Kyoto.
- 島田和彦. 2013. フエダイ科, pp. 913–930, 2001–2003. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 208 pp.
- Tanaka, F. 2019. Family Lutjanidae, pp. 776–807. In Koeda, K. and H.-C. Ho (eds.) Fishes of southern Taiwan. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung.